

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名:湘南医療大学

所 属:保健医療学部 看護学科

名 前:清水奈緒美

作成日:2023年9月30日

1. 教育の責任

看護学科は、将来看護師として活動するための基礎を養う課程である。そのため、看護学科の教員は看護活動の基盤となる知識・技術・態度を身に着けることができるよう教育していく責任がある。ディプロマポリシーを十分に達成した学生を育てられるよう、教育計画を立案し、実施し、併せて学生支援を展開していく必要がある。

資料作成者である清水奈緒美は、保健医療学部看護学科 臨床看護領域の准教授として、担当科目の単元または科目について、科目の目的・目標の達成のために授業・実習を設計し、評価方法を設定する役割がある。2022年度の担当科目は以下のとおりである。

また、本学での授業の他に以下のような活動を行い、教育活動に活かし、教育を行っている。

担当科目：

科目	必修・選択	時期	履修年次
看護基盤実習 I	必修	2022 年度前期	1 年次
成人看護方法論Ⅲ	必修	2022 年度前期	3 年次
成人看護学基盤実習	必修	2022 年度後期	2 年次
成人看護学実習 I	必修	2022 年度後期	3 年次
成人看護学実習 II	必修	2022 年度後期	3 年次
実践看護論 I (がん看護)	選択	2022 年度前期	4 年次
統合実習	必修	2022 年度前期	4 年次

担当会議：

- 1) 学科内会議(国家試験対策委員会、実習委員会等)
- 2) 日本癌治療学会認定がん診療ネットワークナビゲーター専門委員会委員
- 3) 第 11 回日本がん相談研究会年次大会実行委員会委員
- 4) 日本老年腫瘍研究会世話人

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

本学の理念は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」であり、目的は「教育基本法及び学校教育法と本学の理念に基づき、高度な知識と技術とともに、豊かな人間性を育み、創造的かつ実践的な教育研究を通じ、地域社会に貢献していくこと」である。また、ディプロマポリシーは、【人間の命と個を尊重できる力】【エビデンスに基づく実践力】【援助的コミュニケーション力】【チームで連携し協働する力】【安全を保障する力】【看護の発展に対応する力】である。

私が主に担当している成人看護学領域の授業科目は、疾病・治療等の健康障害を持つ患

者の看護を学ぶ科目が多く、【人間の命と個を尊重できる力】【エビデンスに基づく実践力】【援助的コミュニケーション力】【チームで連携し協働する力】【安全を保障する力】のディプロマポリシーと深く結びついている。看護師としての思考過程、倫理観、豊かな人間力を身に着けることが必要であり、それらの基盤として自己を教育する力、自律的に考え行動する力が求められると考えている。自己を教育する力とは、自らが主体的に学ぶために、自分自身で学習の目標や動機づけを設定すること、自分に最もふさわしい学習方法を考え出すこと、自分の学習活動についてモニターしそれを統制することだと捉えている。

2) 理念をもつに至った背景

私の大学教員としての経験は 2022 年度が初年度にあたり、それまで病院を活動の場としてきた。理念をもつに至った背景は、病院における経験であり、すなわち看護師として、管理職として様々な看護スタッフと出会い、看護師としての成長を支援してきた経験による。

看護師は医療の進歩に対応するために学び続けていく必要があり、また看護師として成熟していくために経験から学び続ける必要がある。そのためには、看護基礎教育の段階から自己を教育する力を身に着けていく必要がある。また、自律的に考え行動する力はすべての学びを支え、倫理的な行動をとることを支え、協働することを支えると感じてきたところである。

3. 教育の方法・戦略

2022 年度は大学教員として初年度であることを踏まえ、自己研鑽および教育の方法として次のことを行った。

- 1) 本学科におけるこれまでの教育内容や方法を知り、その成果や課題を知ること
- 2) 担当科目の教授方略や教材を探求すること
- 3) 複数の教員と協働する科目については、他の教員と目標や方法を共有すること
- 4) 担当授業については、教授内容に必要な内容が盛り込まれていること
- 5) 実践看護論では、可能な限り具体的な例を示して授業を展開すること

4. 学習成果

学生の授業評価は 5 件法で以下のとおりであった。()内は平均の数値である。

1) 実践看護論 I がん看護

すべての評価項目において、学生から高い評価を受けた。中でも「意欲的に受講した」(4.90)、「教員の熱意」(4.80)、「総合的な判断」(4.80)が高評価であった。

2) 成人看護学方法論Ⅲ

学生は「意欲的に受講した」(4.55)が、「教え方はわかりやすかったか」(4.15)「板書・配布物は見やすかったか」(4.09)の 3 項目は学科の平均を下回り、修正すべき点があることが示唆された。

3) 成人看護学基盤実習

本科目は実習全体を通して「今後の学習意欲につながる実習であった」(4.89)「実習によって自分自身の学習課題が明らかになった」(4.85)と高評価を得た。旧カリキュラムの科目であり、2022年度が最終となるが、他の教授活動に生かしていけるようにしていきたい。

4) 成人看護学実習Ⅰ

「実習課題や記録物の量は適切であった」(3.43)について評価が低かった。自由記載では、教員によって指導方法が異なって見えることについて、学生が混乱するところがあることが見て取れた。

5) 成人看護学実習Ⅱ

「実習課題や記録物の量は適切であった」(3.67)について評価が低かった。自由記載では、課題の量が多いとの記載等があった。

5. 改善のための努力

1) 講義について

- ① 配布資料を精選する。
- ② 動画等の教材を十分に活用し、学生の理解を促進する授業を計画する。
- ③ 事例を活用して実践をイメージできる授業を計画する。

2) 実習について

- ① 自分自身が実習内容についてよく理解し、教員間で実習指導について検討する機会を持つ。
打合せの機会をもち、実習施設の状況を共有し、記録様式の活用や指導方法について検討する。
- ② 実習の記録様式を検討する。
学習効果を高める記録様式をめざし、実習記録様式を再確認、再検討する機会をもつことを提案する。

6. 今後の目標

長期目標:

学生の学びを支えるには、教員の側もより深い専門的な知識を得ること、学際的な学びを継続する必要があると感じており、学びを継続し、より豊かな指導ができることを目標にしていきたい。

短期目標:

新カリキュラムの運営では、2年次に臨床判断モデルを基盤として、学生は看護過程を学んでいる。2023年度の3年次生の授業では、この思考過程を学生とともに歩む授業設計を検討し、実施していきたい。